

居住環境学科の教育の特色

1. 他大学の「建築学科」と異なる内容

◎ 自然学を学んだ上で、建築学を学ぶカリキュラム

本学科は、自然環境と共生した居住環境の創造を目指しています。それにはまず、自然学の学習が重要です。そこで、学部共通科目の「現代生活と環境問題」「地球環境を考える」「食と環境」の他、様々な科目が選択できます。自然環境への認識を深めながら、居住環境のあり方を考えることができます。

◎ 木と福祉の文化を学ぶ

自然と人にやさしい木の文化と利用を重視しています。特に、従来の建築学科にはない科目「木質構造学」を設け、木の利点と活用を考えています。また「福祉住環境原論」などの科目を設け、福祉の観点からも、共生社会を考えた居住環境のあり方を追求しています。

2. 実体験を重視した教育

◎ 実験・演習・実習などの「体験教育」の重視

◎ 様々なフィールドワークの実施

講義で得た知識を確認し、自ら考える力を高めるための実験・演習・実習を数多く設けています。

3. 高度で充実した設備・装置

◎ 高度な木質構造に関する実験装置を備えた実験棟

◎ 任意の温度・湿度を設定・制御し、様々な実験ができる人工気候室

◎ 衛星写真や航空写真から住宅地図までを扱える環境画像システム室

◎ 学科専用の製図室に、ひとり1台の製図台

◎ 先端設備を導入した学科専用のPC室で行われる、充実したCAD教育

従来の建築学科にはない独自の教育を進めるため、高水準の機器・設備を導入しています。学生は1年次から、他大学の大学院生が用いるような設備を利用して教育を受けています。

4. 少人数教育とユニークな科目構成

◎ 少人数（1学年約40名）での、きめ細やかな教育

1学年約40名の学生一人一人の「顔」をみて、それぞれの個性に合わせた教育を行っています。特に、数多く設けられた実験・演習・実習で効果をあげています。

◎ 目標とする進路に合わせて選択可能な、多様な履修モデル

「一級建築士の受験資格」を目指す履修モデルから「環境計画コンサルタント」「構造設計」「設備設計」更には「行政機関」へ進むための履修モデルまで、各人の適性と志望に応じた選択ができる科目構成をとっています。また、大学院博士前期課程（修士）・後期課程（博士）へ進学し、専門性を深めることもできます。

5. 建築士の受験資格

他大学の建築学科と同様に、卒業後2年間の実務経験を経て、一級建築士の受験資格を得ることができます。

また、卒業後実務経験なしで、二級建築士の受験ができます。

卒業後の進路・進学

卒業後の主な就職先は、ゼネコン、サブゼネコン、住宅メーカー、一般企業、公務員など多岐に渡ります。また、熊本県立大学環境共生学研究所への進学、他大学の大学院へ進学する者もいます。



写真1 構造実験棟での格子壁強度実験風景



写真2 人工気候室内観(左)、外観(右)



写真3 製図室での製図風景(左)、車椅子実習風景(右)



写真4 環境画像システム室(上)
学科専用PC室でのCAD実習風景(下)

公立大学法人



熊本県立大学
環境共生学部
居住環境学科

〒862-8502

熊本県熊本市東区月出3丁目1番100号

代表電話 / 096-383-2929

FAX / 096-384-6765

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp>

公立大学法人 熊本県立大学

環境共生学部

居住環境学科

平成11年4月に創設された環境共生学部は、環境共生型社会の創造を目指し、従来の学問分野の枠組みを超えて「理工農医を総合した新しい自然科学系学部」です。

学部の理念

私達は環境共生に関わる諸問題を総合的に捉え、「自然環境と人間活動とのあり方を追求」し、「地域の発展と人間福祉の向上を目指す」ことを理念としています。

この理念のもと、環境共生学部、同大学院博士前期課程・後期課程を開設し、教育・研究を推進しています。

居住環境学科の理念

「建築・地域 + エコロジー = 居住環境学」

都心では、“まち”が“くらし”や文化と共に壊され、大規模な建築物が次々と建てられ、空調や照明に膨大なエネルギーが消費されています。また、道路には車があふれ、排気ガスが吐き出されています。

地方の“まち”や農山村では、人口が減り高齢化が進む中、活力を失い、大型ショッピングセンターに代表される自家用車依存型の都市開発などの影響もあり、地域全体が壊れかねない状態が拡がりつつあります。

そして、日本の環境にとってかけがえのない農地や山林が、荒廃しています。本当にこんなことを続けてよいのでしょうか？

こんな問題意識をもって、建築学を教育・研究してきた専門家が集まって、居住環境学専攻が平成11年に創設されました。また、平成20年には居住環境学科に再編されました。

居住環境学科では、「地域に密着した題材を通して、従来の建築学科の枠を超える教育・研究」を行っています。

近年の社会の流れを根本から転換し「人と自然、さまざまな人々が共に生き続ける社会」=「環境共生型社会」を目指す熱い心をもち、地域文化や気候風土に根差した“すまい”・建築・都市・農山村などの「環境共生型居住環境を保全・創造する知識、能力、技術を豊富にもった人材育成」を目指しています。

- 図面や絵、デザインが好き
- 地震に強く美しい木造建築をつくってみたい
- 自然を利用し、人の心と体にやさしい環境をつくる技術を開発したい
- 多くの人が住み、“にぎわい”と“楽しさ”あふれる“まち”をつくりたい
- ユニバーサルデザインの建築・まちづくりを目指したい
- さまざまな“すまい”の歴史と未来に興味がある
- 美しい農山村の風景を未来に残したい…

そして人に興味をもち、どこにでも行って何でも見てやろう！

そんな意欲をもった皆さんを大いに歓迎します。



居住環境学科の4つの分野と専任スタッフ

居住空間分野

准教授 高橋 浩伸 (Hironobu TAKAHASHI)

- 専門分野：建築設計、住空間計画学
- 研究課題：美的空間創造のための基礎的研究、空間認知環境評価に関する研究、住空間のデザイン手法に関する研究、住空間の快適な光環境に関する研究
- 授業科目：住空間計画学、比較住文化論、居住環境デザイン実習、共生住文化論など
- 学 位：博士（工学・九州大学）
- E-mail：takahashi@pu-kumamoto.ac.jp

人はどのように空間を認知し評価しているのかを知り、「感動」や「幸福感」を抱けるような空間を創造するための設計デザイン手法や、デザインの在り方を学びます。

准教授 佐藤 哲 (Satoshi SATO)

- 専門分野：建築計画、福祉住環境、福祉のまちづくり
- 研究課題：高齢者の住まいと情報提供の在り方に関する研究、空き家の利活用に関する研究、地域包括ケアに関する研究、住教育教材の開発に関する研究
- 授業科目：建築計画学、福祉住環境原論、居住環境デザイン実習など
- 学 位：博士（工学・横浜国立大学）
- E-mail：satoshi-s@pu-kumamoto.ac.jp

建築によって生み出される空間や環境の分析・評価を通して、建築設計を支える知見や条件を提示・提案し、人間の行動や心理に適した建物を計画するための手法を学びます。

環境調整・設備分野

教授 辻原 万規彦 (Makihiko TSUJIHARA)

- 専門分野：建築環境工学、都市デザイン、建築史
- 研究課題：小学校の教室の温熱環境と住育プログラム、製糖業や電気化学工業の工場と住宅街の建設過程、天草市に残る近代建築物の保存と活用
- 授業科目：環境調整工学、建築環境工学Ⅰ・Ⅱ、居住環境調整工学実験など
- 学 位：博士（工学・京都大学）
- E-mail：m-tsuji@pu-kumamoto.ac.jp
- web：http://pu-kumamoto.ac.jp/~m-tsuji/

各地の気候風土の違いを考慮して、豊かな自然を有効に利用したこれからの地域の環境調整のあり方とその方針について学びます。

●専門分野：建築設備工学・建築環境工学 ※ 現在選考中

構造・材料分野

教授 北原 昭男 (Akio KITAHARA)

- 専門分野：木質構造学、建築耐震構造
- 研究課題：木造軸組構法建物の耐震性能評価、伝統的木造建物の構造特性の解明、都市建築群の地震被害推定と都市地震防災
- 授業科目：木質構造学、居住空間材料学、居住空間構造材料実験、建築構法など
- 学 位：博士（工学・京都大学）
- E-mail：kitahara@pu-kumamoto.ac.jp

環境に優しい居住空間の構築を目指して、木造建物を中心に構造物の構築方法、建築材料の利用法、建物の耐震安全性などについて学びます。

教授 李 麗 (LiLi)

- 専門分野：建築構造学
- 研究課題：木・鋼ハイブリッド耐力壁、木と鋼の環境共生住宅、鋼・コンクリート合成構造に関する研究
- 授業科目：静定構造力学、不静定構造力学、鉄筋コンクリート構造学など
- 学 位：博士（工学・九州大学）
- E-mail：lili@pu-kumamoto.ac.jp

美しさと安全性を両立させる空間造形を可能にする力学や、要求性能に相応しい構造材料の組み合わせ等に関する理論と技術を学びます。

農山村・都市計画分野

准教授 西 英子 (Eiko NISHI)

- 専門分野：都市計画、まちづくり
- 研究課題：都市開発と生活の質、少子高齢社会における都市計画、まちづくりにおける住民参加、デンマークの地域社会研究
- 授業科目：比較都市文化論、都市居住政策学、都市計画、居住環境デザイン実習など
- 学 位：博士（学術・奈良女子大学）
- E-mail：nishi@pu-kumamoto.ac.jp

都市計画の理論や技術、関連諸制度、国内外のまちづくり実践例を通して、これからの都市空間、生活空間のあり方について学びます。

准教授 柴田 祐 (Yu SHIBATA)

- 専門分野：地域計画学、景観
- 研究課題：持続可能な農山漁村地域に関する研究、都市と農村の共生に関する研究
- 授業科目：農山村域計画学、地域景観計画学、地域計画論、居住環境デザイン実習など
- 学 位：博士（工学・大阪大学）
- E-mail：shibatayu@pu-kumamoto.ac.jp

人口減少社会における持続可能な地域づくりを進めるために必要な、地域環境の読み取り方、地域計画の理論や技術、法制度を現場から学びます。

非常勤講師陣
学外の方々（建築家、実務の方々、インテリアデザイナー、熊本大学や崇城大学等からの教員など）も講義を担当されています。

居住環境学科のカリキュラム

— 本気で環境共生型居住環境づくりに取り組む構成です！ —

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目群		「プレゼミナル」、「外国語」、「健康スポーツ科学」、「人間と文化の理解」、「国際理解」、「地域理解」、「現代の科学技術と環境」、「現代社会の理解」、「情報科学」、「キャリアデザイン」							
学部共通科目	導入科目	現代生活と環境問題 地球環境を考える 居住環境を創る 食と環境	フィールドワーク	Pick 導入科目とは？ 居住環境の専門分野に入る前の大切な基礎として、「環境共生に関わる自然や文化」を学びます。					
	基礎科目	国学 居住環境デザイン実習Ⅰ 数学Ⅰ 物理学Ⅰ	居住環境デザイン実習Ⅱ 数学Ⅱ 物理学Ⅱ	情報処理実習	CAD実習Ⅰ	環境共生総合演習	応用情報処理実習		Pick
専攻科目群	農山村・都市環境			比較都市文化論	Pick	都市計画 農山村域計画学	都市居住政策学 地域景観計画学		都市居住政策学とは？ 社会情勢の変化を踏まえ、ハードとしての「都市計画」を補完するソフトとしての都市政策、地域のあり方、仕組みづくりについて学びます。諸外国の事例とも比較検討しながら考えます。
	居住空間	建築史	Pick 木質構造学とは？ 日本を含む世界の木質構造（天然材料—木を用いた）建築の仕組み、成立の歴史木に隠された長所など、その素晴らしさに光を当て、「自然森林を大切にしながら人に優しい」木質構造建築の新しい可能性について考えます。	住空間計画学	インテリアデザイン論 比較住文化論 建築計画学	インテリアデザイン実習 木質デザイン論	福祉住環境原論		Pick 環境調整工学とは？ 現代都市の環境は、人・自然にとって過酷なものになり、膨大なエネルギーを使って「人工的」に制御しています。そのあり方を根本的に改め、緑・風・土・水など「自然力」を巧みに活用した制御方法を考えます。
	環境調整・設備			建築環境工学Ⅰ	建築環境工学Ⅱ 環境設備学	環境設備システム学 環境設備システム学演習	居住環境調整工学実験 環境調整工学		
	構造・材料	建築構法 建築構造の基礎	Pick 木質構造学 静定構造力学 静定構造力学演習	居住空間材料学 不静定構造力学 不静定構造力学演習	鉄筋コンクリート構造学 居住空間構造・材料実験	鉄骨構造学			
	地域計画			森林生態学	地域計画論 海洋生態学	大気環境学 環境関連法規	環境経済学 地方自治論		公共政策論
全体共通			居住環境デザイン実習Ⅲ 木質材料活用論	居住環境デザイン実習Ⅳ	居住環境デザイン実習Ⅴ CAD実習Ⅱ	居住環境デザイン実習Ⅵ 建築施工学	環境防災・安全工学 建築法規		
卒業研究									卒業論文 (もしくは卒業設計)